

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

スクールエージェント株式会社

【サービス名称】

生成AI活用促進パッケージ

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

カテゴリ-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス

2026年1月



※写真はNanobananaで生成したイメージ画像です。

【カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス】

1. サービスの概要、特徴

スクールAIは、強固なセキュリティと教育用フィルタリングによる安全性と、120種超の目的別AIアプリのテンプレートに加え、教員や生徒が独自アプリを簡単に作成・共有できるなど、現場のニーズに合わせた柔軟なカスタマイズ性を特徴とする学校等教育機関特化型の生成AIサービスです。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

- ・スクールAIは、学校に特化した生成AIサービスであり、教育利用における最も重要な懸念である情報漏洩リスクに対し、セキュリティに強いMicrosoft社のAzure環境にシステムを構築し、会話ログ等をAIにデータ学習されない設計がなされています。また、文部科学省のガイドラインを踏まえ、教育的配慮を徹底したコンテンツフィルタリング機能が備わっています。
- ・学校での利用を想定したプロンプトが事前に設定され目的別アプリとして120種類以上のテンプレートが用意されています。また、学校独自で使えるアプリを新規に作成すること、及びそれを学内に共有することも容易で、さらに教員だけでなく教員が許可した生徒についてもアプリ作成が可能となっています。

(2) 学習に関連する効果

1. 探究サイクルの加速と高度化

スクールAIは、「探究のプロセス」の各段階をしっかりサポートします。自分一人では思いつかない多面的、多角的な視点や、社会の複雑な課題に対するヒントをAIから得ることで、問いの質を深めることができます。また、膨大なデータや文献の要約、複雑な事象の構造化をAIが行うことで、生徒は「作業」ではなく「考察」により多くの時間を割けるようになります。

2. 個別最適化された学習の実現

生徒一人ひとりの興味関心や理解度に応じた支援が可能になります。教員が不在の時間帯でも、AIが生徒の疑問に答えたり、議論の壁打ち相手になったりすることで、自律的な探究が促進されます。

3. 批判的思考(クリティカル・シンキング)の育成

AIが誤った情報(ハルシネーション)を出す可能性を逆手に取り、「情報の真偽を確かめる力」を養う機会として活用できます。AIの回答を鵜呑みにせず、複数のソースで裏付けを取るプロセス自体が、高度な情報リテラシー教育(情報活用能力)になります。

(3) サービスの活用場面

1. 【課題の設定】問いの解像度を上げる

- ・視点の拡張: 自分一人では気づけない社会課題や背景知識をAIから聞き出し、問いを多角化します。
- ・歴史人物との対話: 歴史上の人物(例: 織田信長)と対話し、当時の価値観に触れることで独自の問いを立てることができます。
- ・プロジェクトの具体化: 漠然とした興味を、AIとの壁打ちを通じて「実現可能なプロジェクト案」へと落とし込むことができます。

2. 【情報の収集・分析】思考の土台を素早く築く

- ・膨大な情報の要約: 関連文献や調査データの重要ポイントをAIに抽出させ、分析の時間を最大化します。
- ・データの構造化: アンケート結果などの共通点や相違点をAIに分析させ、論理的な裏付けを迅速に整理します。

3. 【まとめ・表現】アウトプットの質を磨く

- ・構成のブラッシュアップ: プレゼン資料やレポートの構成案をAIに評価させ、説得力のある論理構成に改善します。
- ・反論への備え: AIに反対の立場から意見を出させ(ディベート練習)、自分の主張の弱点を補強することができます。

4.【振り返り】メタ認知と次のステップへの指導

- 学びの言語化:活動後にAIと対話して「何に悩み、どう解決したか」を整理し、自律的な学習姿勢を育みます。
- ログに基づく指導:先生は生徒とAIの会話履歴を確認し、個々の探究の特性や行き詰まりに合わせた的確なアドバイスを行います。

(4)1サービスあたりの標準販売価格

1ライセンス(1サービス)あたりの税抜き標準販売価格:月額900円/1ライセンス

※利用料に初期設定は含まれません。

※利用料に通信費は含まれません。

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

導入から運用まで、教育現場の不安を解消する多層的なサポート体制を構築しています。

- 1.導入・操作サポート:スタッフによる伴走:導入時の操作研修やアプリ作成に自信がない方にはスタッフが丁寧に作成をサポートします。
テンプレート提供:120種類以上のテンプレートがあり、ITに詳しくない先生でも即座にアプリの運用を開始できます。
- 2.研修・コミュニティ:体系的にスクールAIを学べるオンライン研修や導入校の先生同士が活用事例やノウハウを共有する勉強会を定例開催し、コミュニティ的なつながりの機会を提供しています。
- 3.事務・手続きサポート:学校での導入に必須となる「保護者向け同意書」や「説明資料(保護者・生徒向け)」のひな形を提供し、先生の事務負担を軽減しています。
- 4.専門家・アカデミアとの連携:大学の准教授などの専門家(認定アドバイザー)が監修・研究に携わっており、教育学的な観点からのエビデンスに基づいた活用を支援しています。

【カテゴリ1-2 探究的な学びの高度化 オプションサービス】

1. サービスの概要、特徴

(1)導入によるメリット、類似サービスとの違い等

生成AI技術の直接体験による理解促進、学校ニーズに応じたカスタマイズ対応、講師派遣による実践型ハンズオン研修

(2)学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

探究学習でのAI活用スキル習得、データリテラシー・批判的思考力の醸成、教育現場でのAI活用定着

(3)サービスの活用場面

総合学習/探究の時間・教職員研修・情報リテラシー教育

(4)1サービスあたりの標準販売価格

230,000円(税抜)

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

事前打ち合わせ・授業カスタマイズ・講師派遣・研修実施

導入前の振り返りの形骸化や個別指導の限界、AIへの不安といった課題に対して、スクールAIは安全な環境下で生徒の思考に伴走し、24時間リアルタイムで問い返しや添削を行う「対話的な伴走者」として機能します。これにより、生徒の主体的な試行錯誤や深いメタ認知を引き出し、探究学習を高度化させる役割を担います。

児童生徒・教職員が抱える課題

探究学習のプロセス別：導入前の課題まとめ

1. 【課題の設定・情報収集】

視点の限界: 自分一人の考えでは、社会課題に対する多角的な問いを立てるのが難しい。

安全性の不安: セキュリティや前例のなさから、AIを調べ学習に使う環境が整っていない。

2. 【整理・分析・試行錯誤】

試行錯誤の停止: 自分自身の誤りに気づけず、内容を深めるための改善プロセスが生まれない。

指導のタイムラグ: 質問への回答や添削をリアルタイムで行えず、生徒の思考が途切れてしまう。

待ち時間の発生: 先生が個別の質問に対応している間、他の生徒の学習が止まってしまう。

3. 【まとめ・表現】

表現の停滞: 客観的な助言を得る機会が少なく、資料や発表内容のブラッシュアップが不十分になる。

評価の難化: 生徒ごとに進度や内容が異なり、従来の一律的な基準では成果を正確に見取れない。

4. 【振り返り(メタ認知)】

活動の形骸化: 振り返りが単なる感想の羅列になり、学びを深めるための「言語化」ができていない。

納得感の欠如: 自分の課題や改善点がわからず、振り返りを次の学習に活かせていない。

サービスが果たす役割

探究プロセスにおけるスクールAIの役割

1. 【課題の設定・情報収集】

視点の拡張: 社会課題との接点やヒントを提示し、問いを深める対話相手となります。
安全な探索: 学習データに利用されない環境で、心理・技術的障壁なくリサーチを支えます。

2. 【整理・分析・試行錯誤】

思考の伴走: 誤りに気づかせ、ヒントを小出しにして自発的な試行錯誤を促します。
即時個別対応: 先生に代わりその場で添削・解説を行い、生徒の思考を止めません。
学びの継続: 質問待ちを解消し、習熟度に応じた課題提供で全員の学習を維持します。

3. 【まとめ・表現】

推敲支援: 客観的な改善案を提案し、生徒自ら内容を磨き上げる質向上を助けます。
見取りの可視化: 対話ログを通じて、数値化しにくい思考の深まりを評価材料にします。

4. 【振り返り(メタ認知)】

言語化の促進: AIの問い返しにより、学びの意味を自分の言葉で整理・言語化させます。
成長の定着: 学びを将来と結びつけるよう促し、納得感ある自己評価を支えます。

共通する土台の役割

運用負荷の軽減: 専用アプリや書類により、先生が迷わず活用できる環境を整えます。
信頼の醸成: 厳格なセキュリティ基準により、学校・保護者が安心できる活用を実現します。

サービスの活用風景・授業の流れ

【課題】

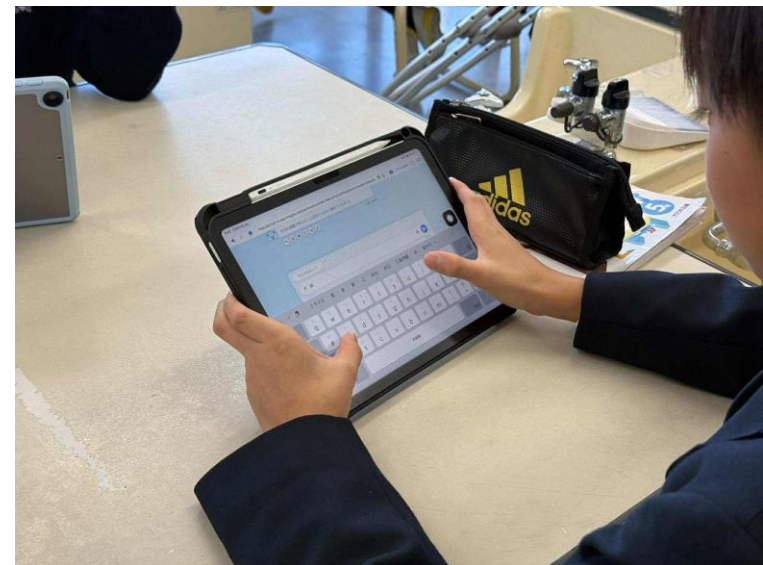
振り返りシートの回収・確認・返却に時間がかかり、学習直後のフィードバックが不可能であった。

【解決方法】

スクールAIを「探究の循環（目標→実践→考察）」を支える媒介として活用。

【授業の流れ】

利用タイミング	活用内容
(導入) 目標設定	その時間の学習目標を個別に設定し、「何を学ぶか」を自覚する。
(展開)	教師が前回のリフレクションを踏まえた授業を展開。
(まとめ) リフレクション	スクールAIを用い、達成度(A/B/C)と気づきを入力。AIから即時フィードバックをもらうことで、自身の疑問以外の観点での問いが生まれ、授業内容を超えた探究的な学習へ広がった。



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	11	学校等教育機関数	40校
--------	----	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	学校法人 鎮西敬愛学園	敬愛小学校	福岡県	小	4,5,6	理科、社会、英語、国語
2	学校法人雲雀丘学園	雲雀丘学園小学校	兵庫県	小	1~6	算数、国語
3	静岡県教育委員会	静岡県立清水西高等学校 他1校	静岡県	高	1~3	化学基礎、保健体育、数学
4	浪江町教育委員会	浪江町立なみえ創成小学校 他1校	福島県	小・中	小1~6、 中1~3	社会、英語
5	天川村教育委員会	天川村立天川小学校	奈良県	小	1~6	英語、総合
6	倉吉市教育委員会	倉吉市立西郷小学校	鳥取県	小	1~6	社会、理科
7	島根県教育委員会	島根県立出雲工業高等学校	島根県	高	1~3	数学、工業
8	福岡県教育委員会	福岡県立新宮高等学校	福岡県	高	1~3	化学基礎
9	南相馬市教育委員会	南相馬市立原町第一小学校 他11校	福島県	小・中	小1~6、 中1~3	英語、算数、総合
10	苅田町教育委員会	苅田町立新津中学校 他6校	福岡県	小・中	小1~6、 中1~3	社会、総合
11	交野市教育委員会	交野市立星田小学校 他10校	大阪府	小・中	小1~6、 中1~3	国語、社会、英語、道徳、数学、総合

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

探究学習の高度化について、スクールAIで作成したアプリの活用状況(「活用規模」「多様化」「質の高い活用」)から定量的に分析しています(今回導入した40校の累計データ)。

1. 全体概況

6月の導入以降、利用数は右肩上がりに成長し、9月の新学期を機に「爆発的な普及期」へ移行しました。11月には起動数が約1万件に達しており、単なる試行を超え、学校全体の日常的な学習ツールとして定着しています。

2. 数値から見る3つの成果

・規模の拡大(起動数:約7.6倍)

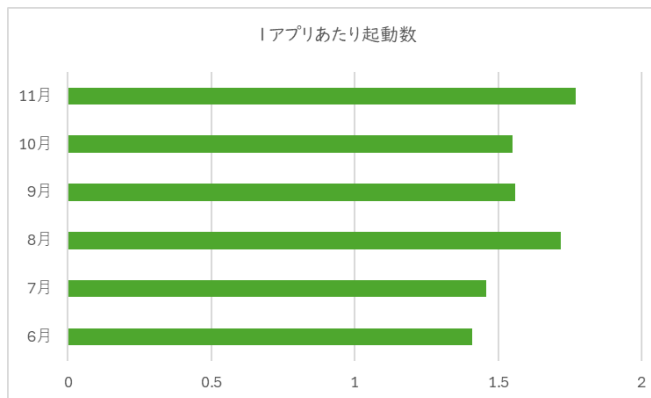
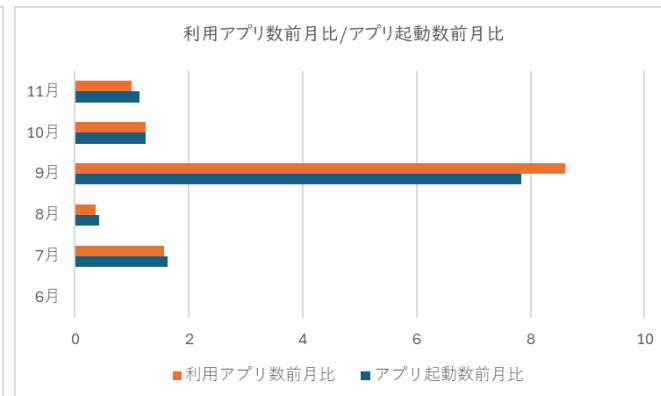
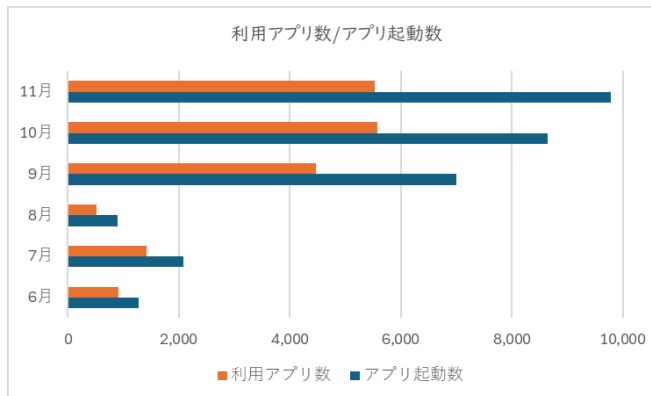
6月の1,285回から11月の9,793回へと急増。特に2学期開始後の継続的な伸びは、授業設計への深い組み込みを示しています。

・活用の多様化(利用アプリ数:約6.1倍)

6月の909個から11月の5,534個へ拡大。特定の用途に留まらず、多種多様な学習シーンで最適なアプリを選んで、あるいは学校独自で作成し、アプリを活用している様子を示しています。

・活用の深化(1アプリあたり起動数:1.41 → 1.77)

総数が増える中で「1アプリあたりの利用回数」も向上。これは「一度聞いて終わり」ではなく、AIとの対話を重ねて思考を深める「質の高い活用」が増えていることを示しています。



定性的効果検証

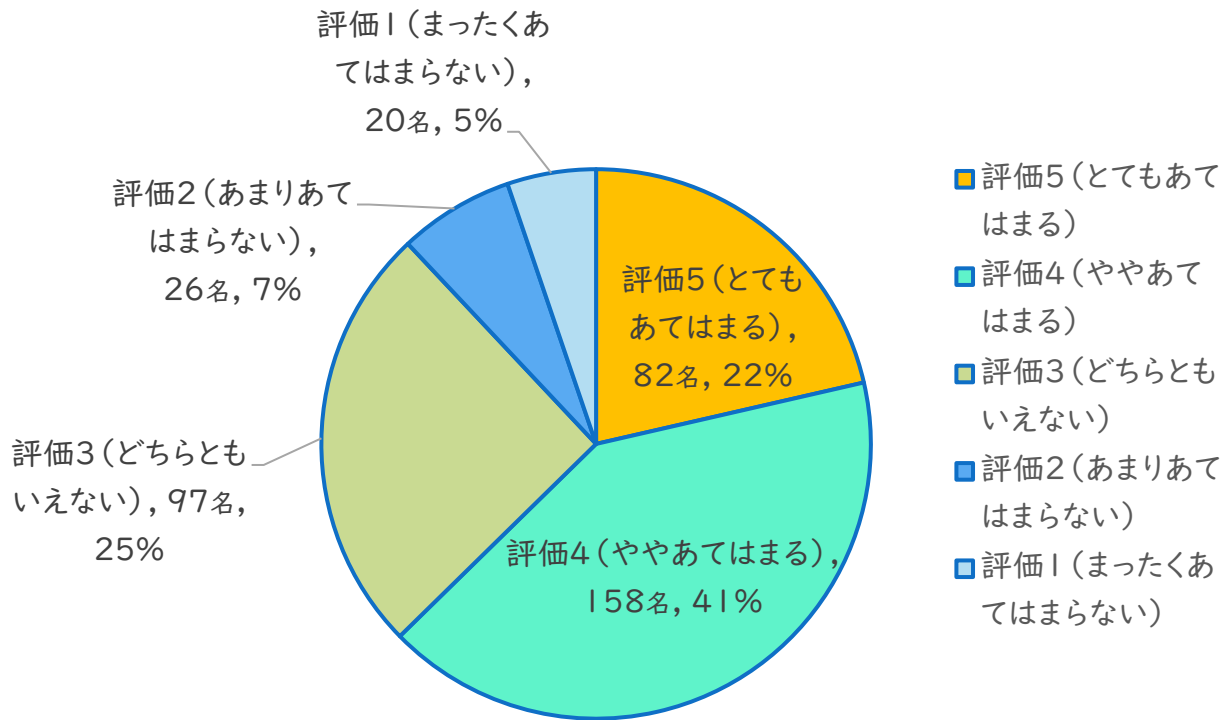
①（興味・関心） スクールAIを使ったことで、もっと知りたい、学びたいという気持ちが強くなりましたか。

児童、生徒へアンケートを実施した。

対象者：児童生徒計383名

実施時期：12月、授業実施後

調査方法：Google フォームによる無記名アンケート



肯定的回答率（とてもあてはまる、ややあてはまるを選択した生徒）が約63%（240名/383名）

- ・ 半数以上の児童・生徒が、スクールAIの使用を通じて「もっと知りたい」という意欲を向上させている。
- ・ 従来の学習にAIという新しい要素が加わることで、学びの入り口における動機づけに成功している。
- ・ 従来の教材では関心が薄れがちだった層に対し、AIとの対話が知的好奇心を維持させる効果をもたらした。

定性的効果検証

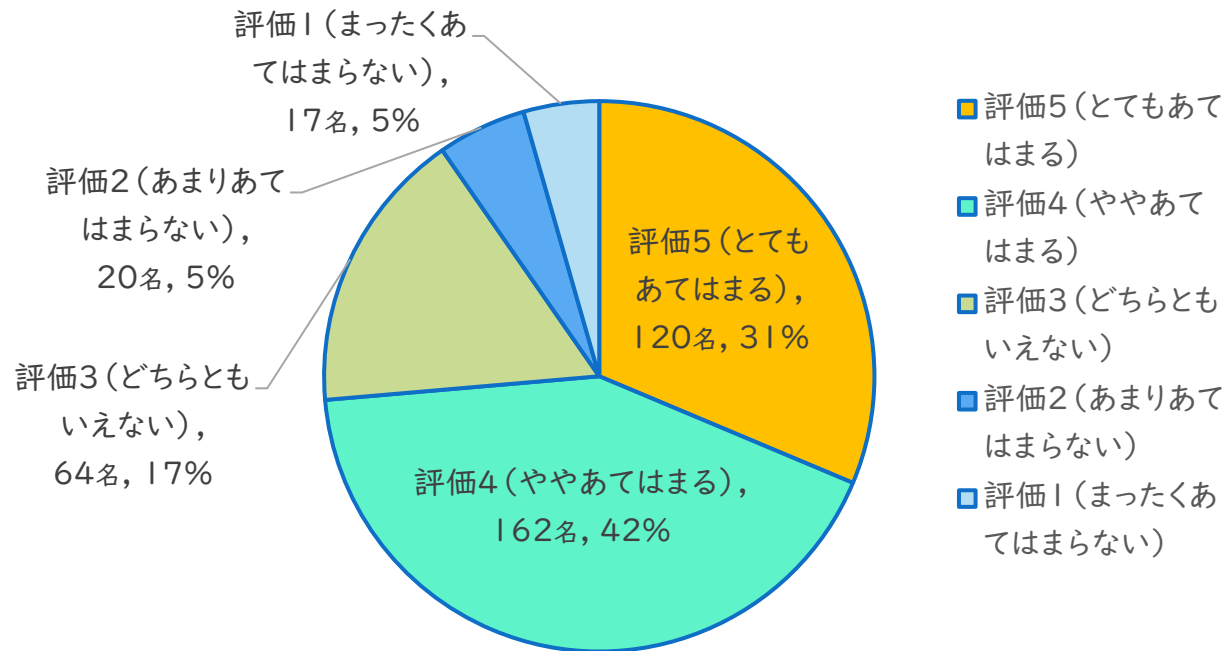
② (課題設定) 授業の振り返りやまとめから、スクールAIからのアドバイスやヒントをもらって、次に何を頑張ればよいか分かるようになりましたか。

児童、生徒へアンケートを実施した。

対象者: 児童生徒計383名

実施時期: 12月、授業実施後

調査方法: Google フォームによる無記名アンケート



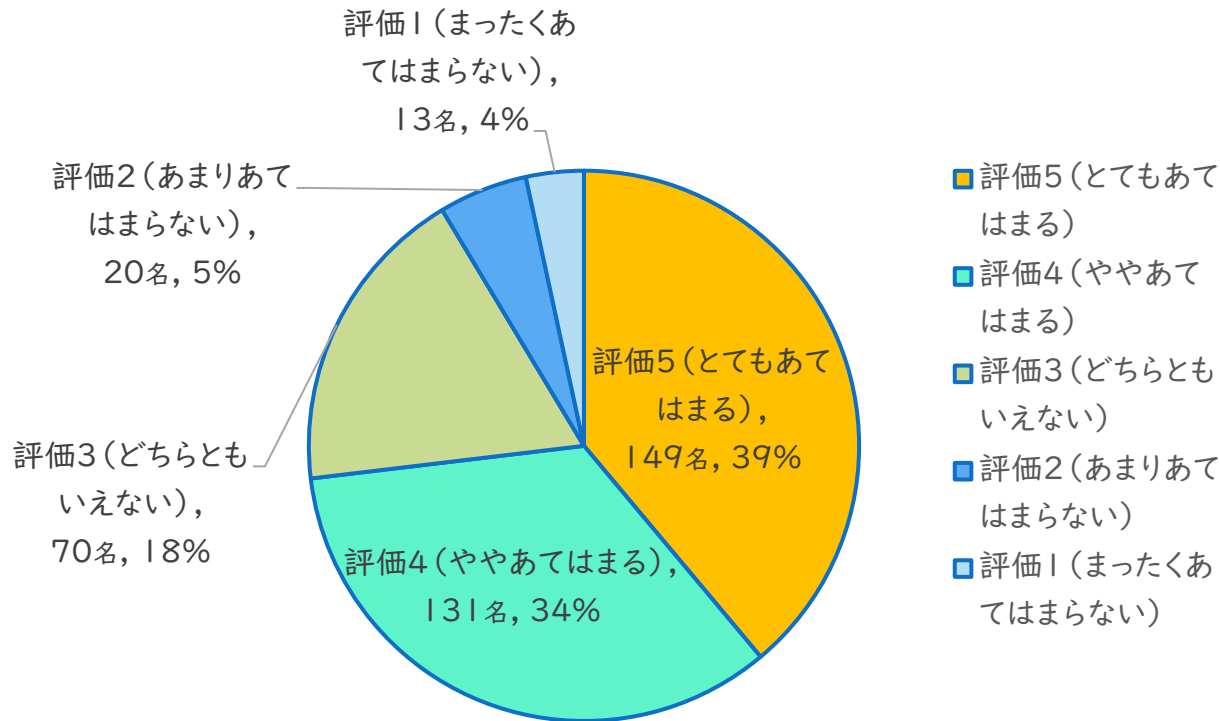
肯定的回答率(とてもあてはまる、ややあてはまるを選択した生徒)が約74%(282名/383名)

- ・ 7割超の生徒が「次に何をすべきか」を自ら判断できるようになり、学習の自己管理能力が向上した。
- ・ AIの提示するヒントが、教員を待つ間のタイムロス無くし、思考を止めないスムーズな課題解決を支援した
- ・ 漠然としていた学習の振り返りが、AIの具体的な助言により「次の一歩」として明確に定義された。

定性的効果検証

③(情報収集) スクールAIを使うことで、調べたいことに関する、視点は広がりましたか。

児童、生徒へアンケートを実施した。
対象者: 児童生徒計383名
実施時期: 12月、授業実施後
調査方法: Google フォームによる無記名アンケート



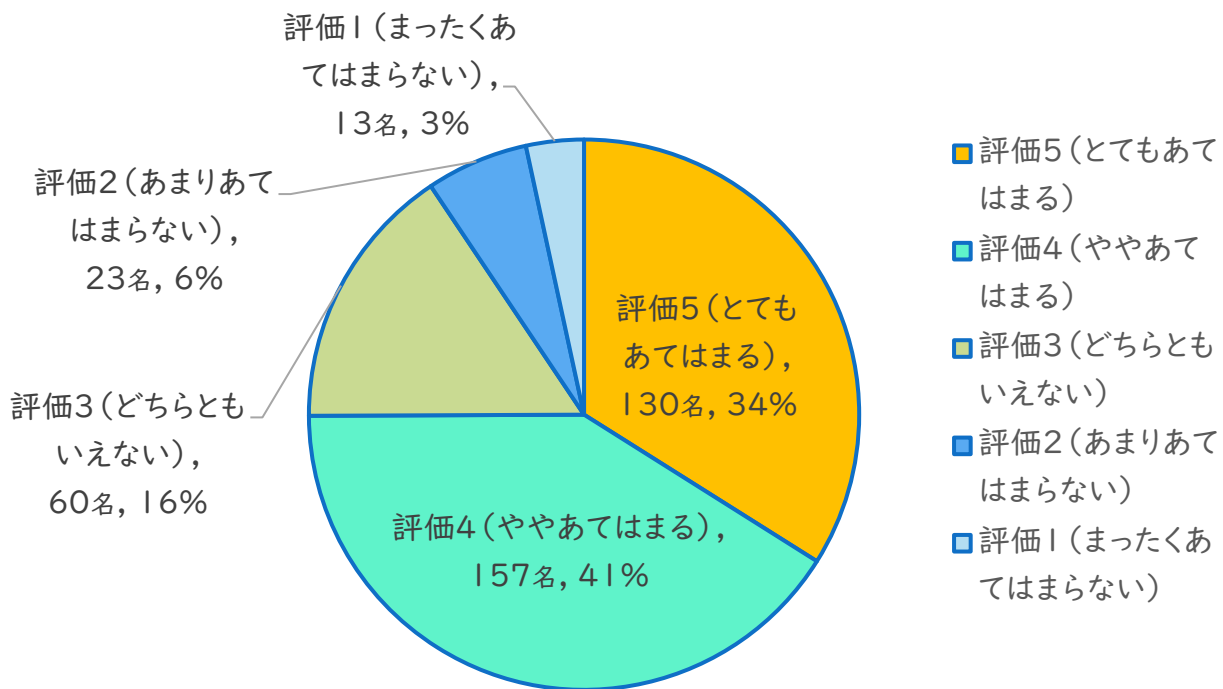
肯定的回答率(とてもあてはまる、ややあてはまるを選択した生徒)が約73%(280名/383名)

- ・ 全項目中最多の149名が最高評価を付け、自分一人の発想では到達できない多様な視点を得た。
- ・ 効率的に情報を集めるだけでなく、AIが示す新たな切り口によって、調査内容そのものが深まった。
- ・ 検索キーワードが思いつかない生徒にとっても、AIが「思考の補助」となり、情報の核さを埋める役割を果たした。

定性的効果検証

④（整理・分析）スクールAIを使うことで、難しいことも、よく考えて深くわかるようになりましたか。

児童、生徒へアンケートを実施した。
対象者：児童生徒計383名
実施時期：12月、授業実施後
調査方法：Google フォームによる無記名アンケート



肯定的回答率（とてもあてはまる、ややあてはまるを選択した生徒）が約75%（287名/383名）

- ・ 全項目で最高の肯定的回答率を記録。「難しいことも深く考える」という、最も難易度の高いプロセスで最大の効果を発揮した。
- ・ 散らばった情報を整理する際、AIが壁打ち相手となることで、論理の矛盾や不足に気づく機会が増えた。
- ・ 一人では理解が難しかった複雑な事象も、AIによる解説や整理を通じて、深い納得感へと繋がった。

定性的効果検証

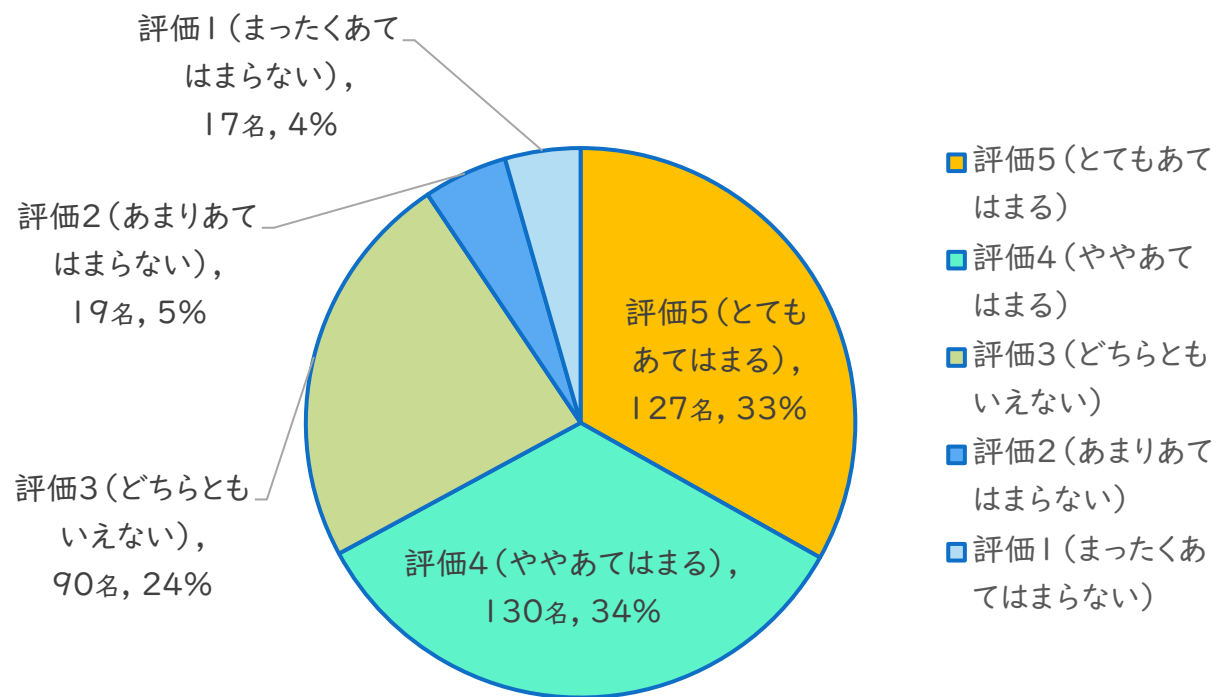
⑤（まとめ・表現）スクールAIを使って、自分の考えや調べたことを分かりやすくまとめ、発表することができましたか？

児童、生徒へアンケートを実施した。

対象者：児童生徒計383名

実施時期：12月、授業実施後

調査方法：Google フォームによる無記名アンケート



肯定的回答率（とてもあてはまる、ややあてはまるを選択した生徒）が約67%（257名/383名）

- ・自分の考えを「分かりやすく伝える」ための校正案作成において、3分の2以上の生徒が効果を実感した。
- ・頭の中にあるイメージを言葉にするプロセスをAIが補助し、表現することへの苦手意識を軽減させた。
- ・構成が整うことで、発表やまとめ作業に対して自身を持って取り組める好循環が生まれた。

【生徒コメント】

- ・ **具体的で分かりやすいフィードバック**
学習の振り返りに対して評価や改善点を示してもらえ
るため、納得しながら次の学習に進めた。
- ・ **考えを整理・言語化できる支援**
自分の考えを入力すると、短く分かりやすく整理してく
れ、理解が深まった。
- ・ **段階的な学習サポート**
すぐに答えを教えてもらうわけではなく、ヒントを出して
もらいながら自分のペースで考えられた。
- ・ **学習意欲を高める対話体験**
親しみやすく楽しいやり取りを通して、学習への前向き
な気持ちが高まった。
- ・ **自分に合った学び方ができる**
分からないところを何度でも質問でき、自分の理解度
に合わせて学習を進められた。

【先生コメント】

- ・ **振り返りの質の向上と探究の深化**
AIによる問い返しや即時フィードバックにより、生徒の
思考が深まり、主体的な探究活動につながった。
- ・ **個別最適な指導の実現**
生徒一人ひとりに応じた添削・ヒント提示が可能となり、
学習の遅れや理解差の縮小に寄与した。
- ・ **授業改善への活用**
生徒の学習ログを通じてつまづきを把握でき、指導内
容の見直しや改善に直結した。
- ・ **授業運営の効率化と学習の高度化**
教員の補助役として機能し、生徒の待ち時間削減や、
意欲的な生徒の自走的・発展的学習を促進した。
- ・ **教師の負担軽減と指導の質向上**
繰り返し説明や基礎的対応をAIが補完することで、教
員は対面での指導や支援が必要な生徒に注力できた。

導入負担や活用格差、研修不足、心理的抵抗感を課題とし、ガイド整備や成功事例の共有、短時間研修、伴走支援を通じて、自律的で持続可能な活用を促進する。

直面した課題

- ・**初期導入コストの増大:**
操作習熟・運用フローの確立に時間を要し、自律的な活用(自走)に至るまでに想定以上に時間を要した。
- ・**活用度の二極化:**
教員個々のスキルや意欲、および学校間の意識差により、活用率に顕著な乖離が生じている。
- ・**研修機会の不足:**
支援のためのワークショップ等を企画しても、現場教員の多忙により時間確保が困難である。
- ・**心理的障壁:**
AIの教育利用に対し、教育的効果や安全性への懸念から抵抗感を持つ層が一定数存在する。

解決するための改善策

- ・基本操作に絞ったガイド整備と、他校の成功事例を「型」として展開するテンプレート提供により、運用開始までの負担を軽減する。
- ・学校・個人別の利用状況を分析レポート化して提供。訪問やオンラインフォローを行う。
- ・隙間時間に視聴できる短時間動画の配信や、既存の会議冒頭5分を活用したレクチャーにより、多忙な現場でも無理なく習熟できる環境を作る。
- ・教育現場での利用を前提としたガイドラインや活用事例を共有することで、AIの共育的意義と安全性への理解を深め、心理的抵抗感を軽減する。

■会社概要

社名	スクールエージェント株式会社
代表	田中 善将
設立年月	2018年5月9日
本社	〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目3番13号 西新宿水間ビル6階
資本金等	100万円
売上高等	6000万円
従業員数	10名
事業内容	1. 教育ICTコンサルティング 学校様の現状に合わせ、ICT導入のグランドデザイン策定や、教職員の働き方改革（校務効率化）を伴走支援します。 2. 教職員・自治体向け研修 Google 認定教育者の資格取得支援や、ICTを授業で使いこなすための実践的なトレーニングを実施します。 3. 学習・授業プロデュース 生成AIやプログラミングを活用した最新の授業設計や、生徒によるICTサポートチームの育成を支援します。

■お問い合わせ窓口

担当： 宮川 理奈子

電話： 03-6681-0150

Mail： sa.office@schoolagent.jp